HONDA

汎 用 製 品

エンジン

iGX440

取扱説明書

お買いあげありがとうございます。
ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書を
お読みください。

ECOLOGY CONSCIOUS TECHNOLOGY

はじめに

●この取扱説明書は、お買いあげいただいたエンジンの正しい取扱い方法、簡単な点検および手入れについて説明しています。ご使用の前にこの取扱説明書を良くお読みください。

安全に関する表示について

本書では、作業者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記の表示を使って記載し、その危険性や回避方法などを説明しています。これらは安全上特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

⚠危険

指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠警告

指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠注意

指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

取扱いのポイント

指示に従わないと、本機やその他のものが損傷する可能性があるもの

取扱説明書について

この取扱説明書は

●エンジンを操作するときは、必ず身近な所に置いてください。
●エンジンを貸与または譲渡される場合は、本機と一緒にお渡しください。
●紛失や損傷したときは、お買いあげいただいた販売店にご注文ください。

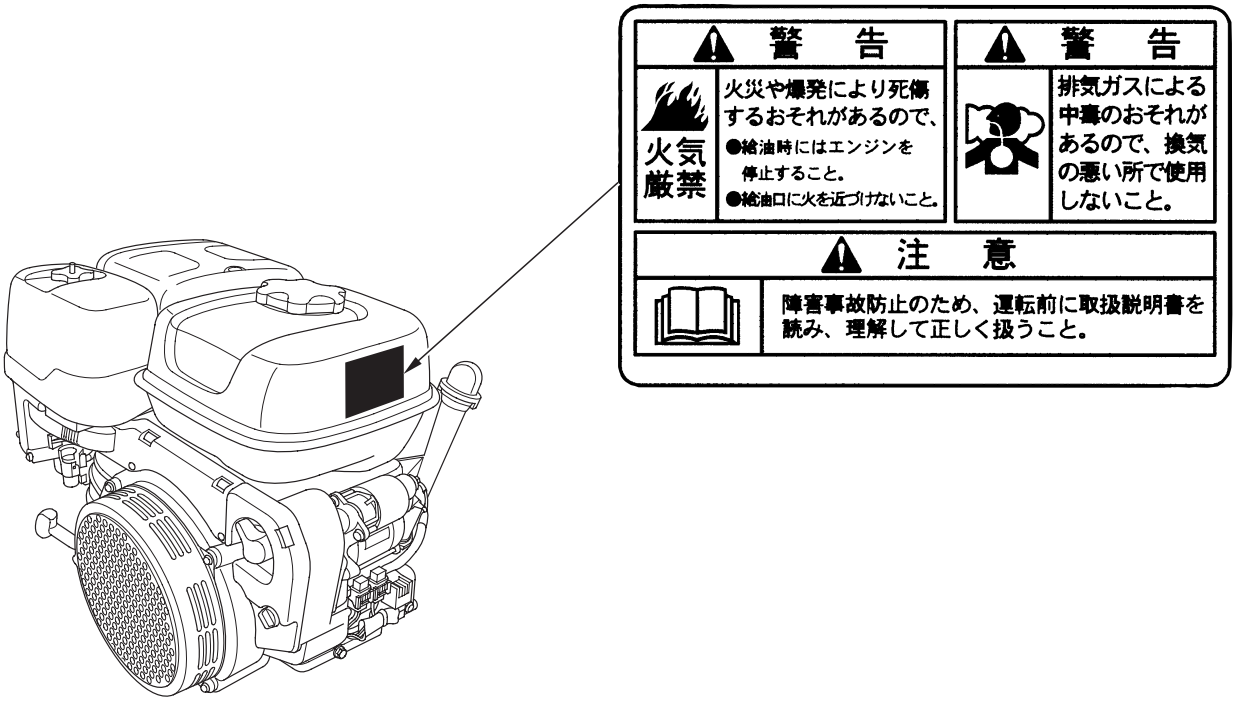
●この取扱説明書は、仕様変更などによりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。

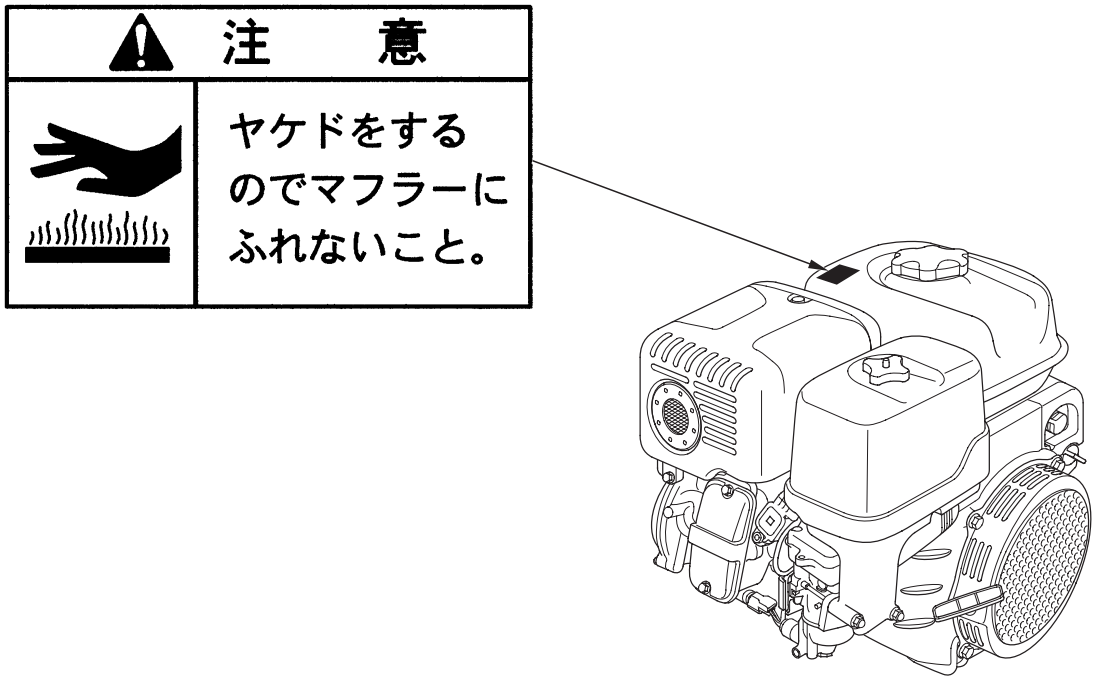
e-SPECは、Hondaが「豊かな自然を次の世代に」という願いを込めた汎用製品環境対応技術の証です。

本製品は、(社)日本陸用内燃機関協会の小型汎用ガソリン　エンジン排出ガス自主規制に適合しています。

●安全ラベル

Hondaエンジンを安全に使用していただくために、本機には安全ラベルが貼ってあります。
安全ラベルをすべて読んでからご使用ください。
ラベルはハッキリと見えるように、きれいにしておいてください。
本機に貼ってあるラベルが汚れ、破れ、紛失などで読めなくなってしまったときは、新しいラベルに貼り替えてください。また、安全ラベルが貼られている部品を交換する場合はラベルも新しい物を貼ってください。
安全ラベルはお買いあげ販売店にご注文ください。





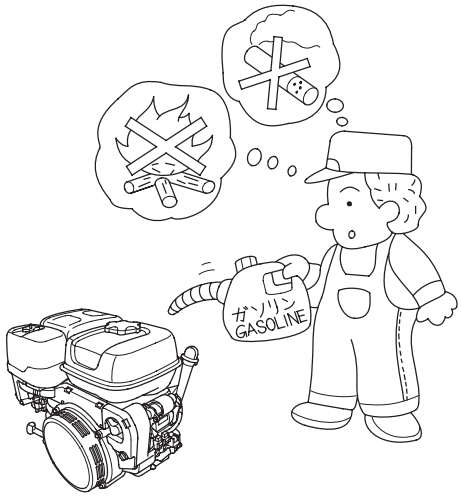
※安全ラベルと貼付位置はタイプにより一部異なる場合があります。

安全にお使いいただくために これだけはぜひ守りましょう

警告

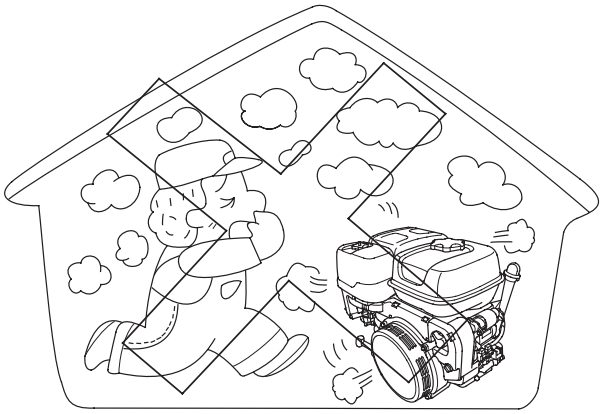
あなたと他の人の安全を守るために次の指示に従ってください。

- この取扱説明書を事前に読み、正しい取扱い方法を十分にご理解の上、操作してください。
- 間違いなく取扱うために各部の操作に慣れ、すばやく停止する方法を習得してください。
- エンジンを始動する前に必ず「エンジンを始動する前に点検しましょう」(5～8 頁)を行ってください。事故や機器の損傷防止になります。
- 適切な指示、説明なしでは絶対に誰にも本機の運転操作をさせないでください。また、子供には絶対にさわらせないでください。事故や機器の損傷が起こる原因となります。
- カバーやラベル類、その他の部品を外してエンジンを操作しないでください。また弊社がみとめない改造または使用はしないでください。思わぬ事故の原因となることがあります。
- 過労や飲酒、薬物を服用してエンジンを使用しないでください。判断が鈍り重大な事故を引き起こすことがあります。
- エンジンを作業機などに搭載する場合は、安全性、耐久性を確保するために高度な技術が必要です。搭載する際は、お買いあげいただいた販売店にご相談ください。
- エンジンの日常点検、整備を必ず行い、不具合のある場合は使用前に修理してからご使用ください。
- ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。燃料を補給するときは必ずエンジンを停止して換気の良い場所で行ってください。
- 燃料を補給するときや燃料タンクの付近では、タバコを吸ったり炎や火花などの火気を近づけないでください。
- 燃料をこぼさないように注意し、給油限界位置を超えないように補給し、燃料タンク　キャップを確実に締めてください。もし燃料がこぼれた場合は、きれいにふき取りよく乾かしてからエンジンを始動してください。

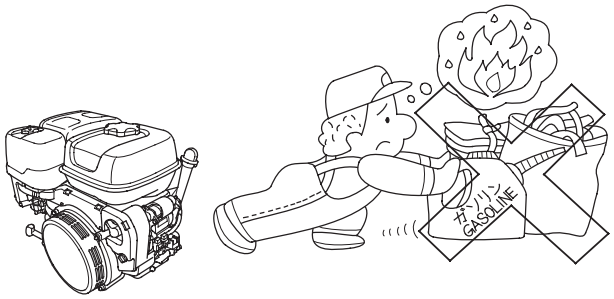


警告

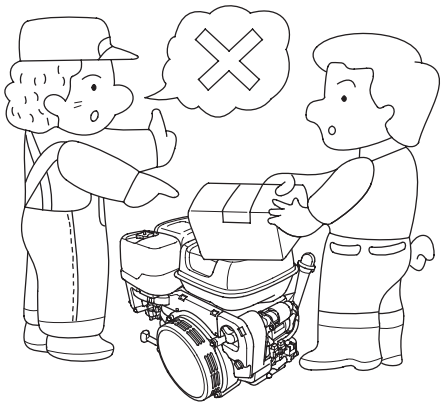
- 室内、車内、倉庫、トンネル、井戸、船倉、タンク内などの換気の悪い所では使用しないでください。有害な一酸化炭素がたまってガス中毒を引き起こすことがあります。
- 排気ガス中には有害な成分が含まれています。ご使用になる方はもちろん、まわりの人や動植物などにも十分注意してください。
- 建物や遮へい物などで風通しの悪い場所、また排気ガスがこもる場所などでも有害な一酸化炭素がたまってガス中毒を引き起こすことがありますので使用しないでください。



- 思わぬ転倒事故を防止するためにエンジンは水平で安定した場所に設置してください。また火災を防止するために建物およびその他の設備から１ｍ以上離して設置してください。
- エンジンのまわりには、わらくず、紙くず、木くずなどの燃えやすいものや、油脂類、石油製品、火薬などの危険物を近づけないでください。火災や爆発の危険があります。



- 運転中はもちろん、使用しないときも、エンジンの上部に物を置かないでください。変形したり、思わぬ事故を引き起こすことがあります。
- 運転中や停止直後はエンジン本体やマフラなどに触れないでください。
  熱によりヤケドをするおそれがあります。
- 運転中はイグニッション　コイルに触れないでください。感電のおそれがあります。

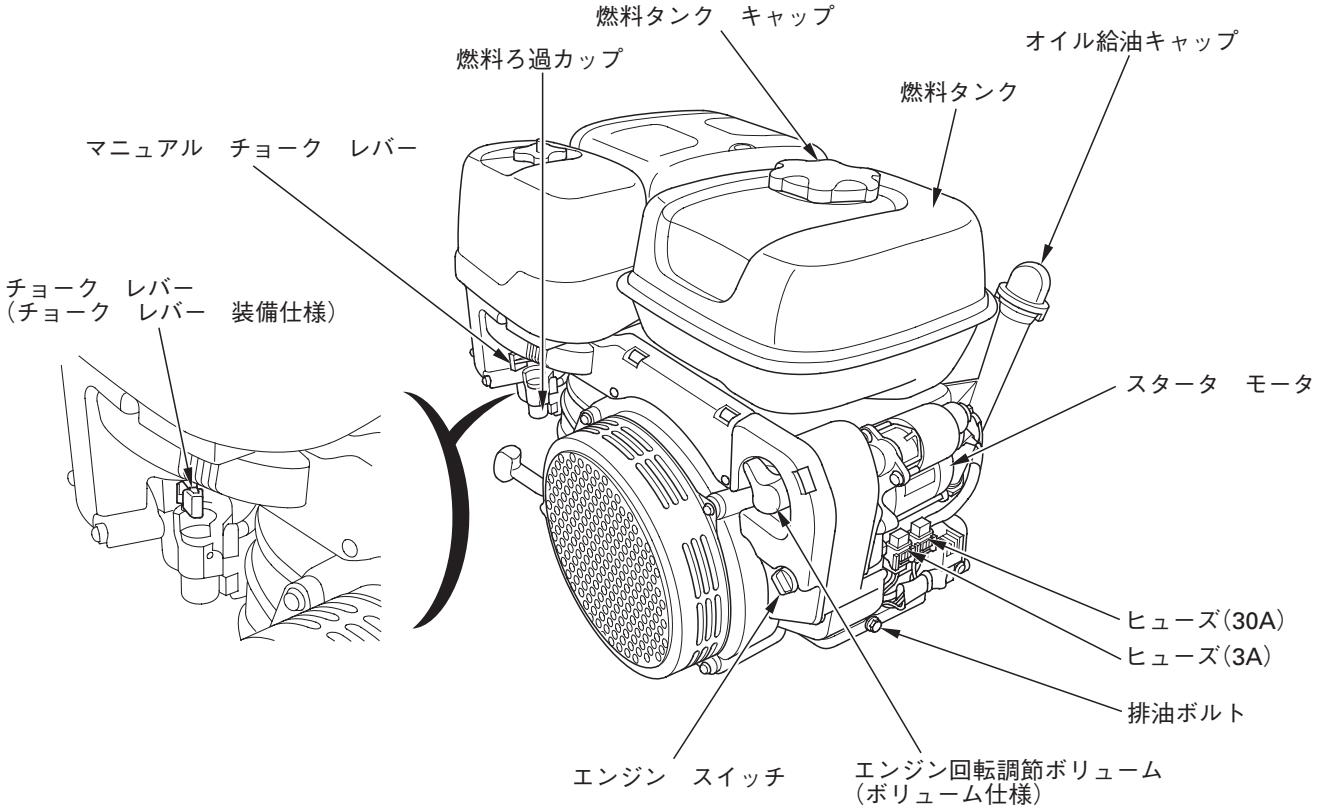


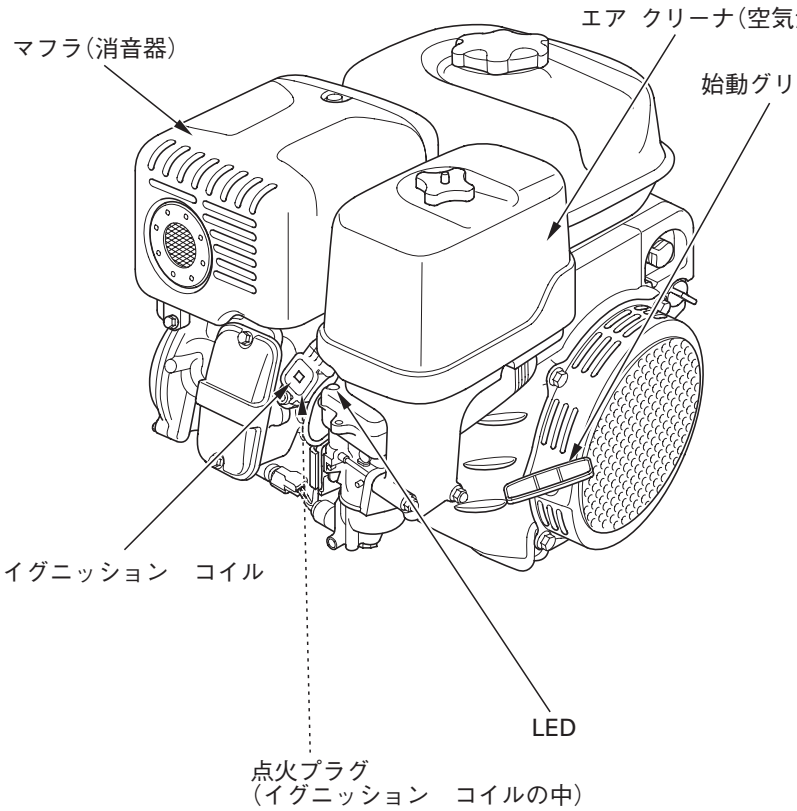
エンジンを始動する前に点検しましょう

⚠警告

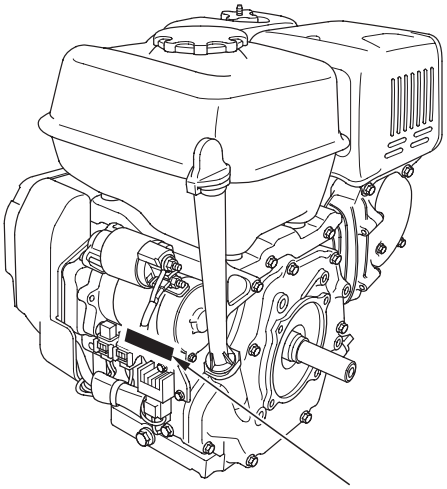
点検は平坦な場所でエンジンを水平にし、エンジンを停止して行ってください。誤ってエンジンがかからないようにエンジン　スイッチを“OFF”(停止)の位置にしてください。

各部の名称と点検個所





タイプとエンジン号機の表示位置

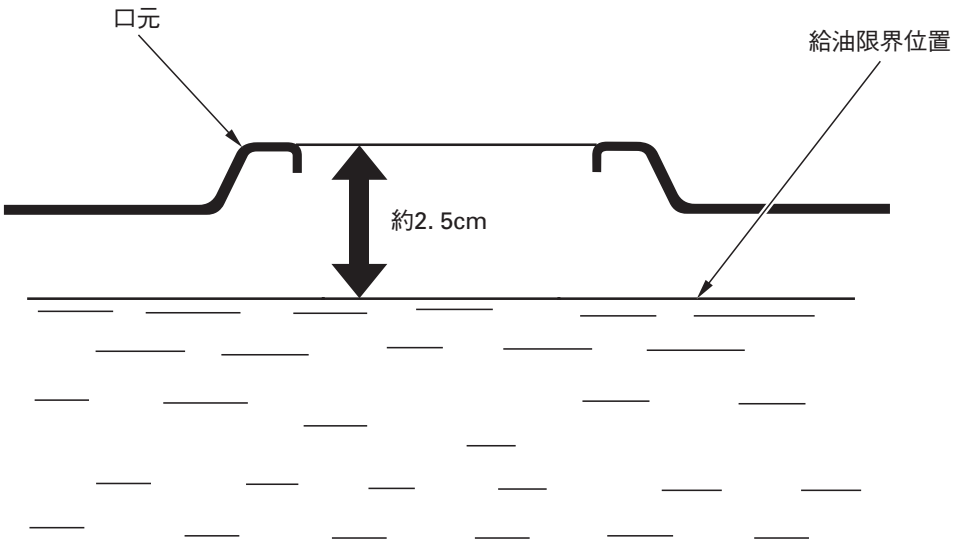


ガソリンの点検

⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。
ガソリンを補給するときは
- **エンジンを停止してください。**
- **火気を近づけないでください。**
- **身体に帯電した静電気を除去してから給油作業を行ってください。**
  静電気の放電による火花により、気化したガソリンに引火しヤケドを負うおそれがあります。
  本機や給油機などの金属部分に触れると、静電気を放電することができます。
- **ガソリンはこぼさないように補給してください。万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取り、火災と環境に注意して処分してください。**
- **燃料は注入口の口元まで入れず所定の給油限界位置を超えないように補給してください。入れすぎるとガソリンが燃料タンク　キャップからにじみ出ることがあり危険です。**

《点検》
- エンジンを水平にし、燃料タンク　キャップを外し、注入口より燃料の量を点検します。少ない場合は給油限界位置を超えないように補給してください。



《補給》
使用燃料：無鉛レギュラーガソリン
- 使用条件により給油限界位置はさらに低くしてください。
- 補給後、燃料タンク　キャップを締めて、3回以上「カチッ」と鳴るまで完全に締付けてください。

取扱いのポイント

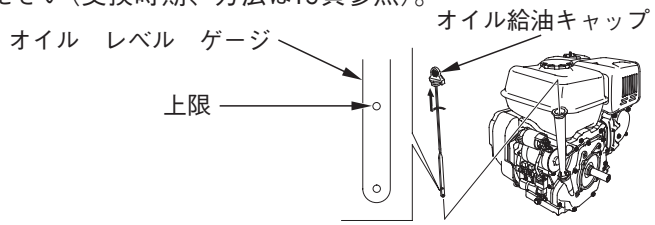
- **必ず無鉛レギュラーガソリンを補給してください。高濃度アルコール含有燃料を補給すると、エンジンや燃料系などを損傷する原因となります。**
- **軽油、灯油や粗悪ガソリン等を補給したり、不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンなどに悪影響をあたえます。**
- **ガソリンは自然に劣化しますので30日に1回、定期的に新しいガソリンと入れ換えてください。**

エンジンを始動する前に点検しましょう

エンジン　オイルの点検

《点検》

1．エンジンを水平にし、下図のようにエンジン　オイル給油キャップを外し、オイル　レベル　ゲージについたオイルをふき取ります。
2．オイル　レベル　ゲージを押込み、エンジン　オイル給油キャップのつばの部分が給油口にあたった位置で抜取り、オイル量が上限近くにある事を確認します。
3．オイル量が少ないときは、上限までオイルを補給してください。オイルの汚れや変色が著しい場合はオイルを交換してください(交換時期、方法は13頁参照)。



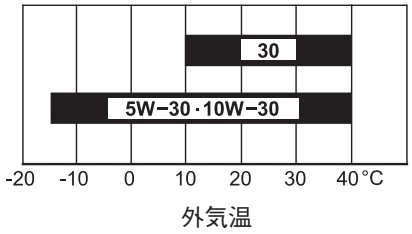
《補給》

・エンジン　オイル給油キャップを外し、新しいオイルを上限まで補給します。

《推奨オイル》（4サイクル ガソリン エンジン オイル）
Honda純正ウルトラU汎用(SAE10W-30)
またはAPI分類SE級以上のSAE10W-30オイルをご使用ください。

《オイル容量》 1.1ℓ

エンジン　オイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。



取扱いのポイント

オイル給油キャップは確実に押込んでください。押込みがたらないとオイルが漏れることがあります。

オイルアラート　焼付防止エンジン自動停止装置

上記エンジン　オイル量の点検を必ず行ってください。
エンジン　オイルが不足するとオイルアラートが作動します。
オイルアラートが作動した場合はすみやかにエンジン　オイルを補給してください。
オイルアラートの作動はECUの設定により異なります。

オイルアラートの作動

ECU設定 / エンジン仕様	エンジン停止設定	エンジン運転継続設定
セルフ　スタータ仕様	・ ECUのLEDが2回点滅する。 ・エンジンが自動的に停止する。 ・エンジンの始動ができない。	・ ECUのLEDが2回点滅する。 ・エンジンの再始動はできません。エンジン　オイルを補給することで始動できます。
リコイル　スタータ仕様	・エンジンが自動的に停止する。 ・エンジンの始動ができない。	

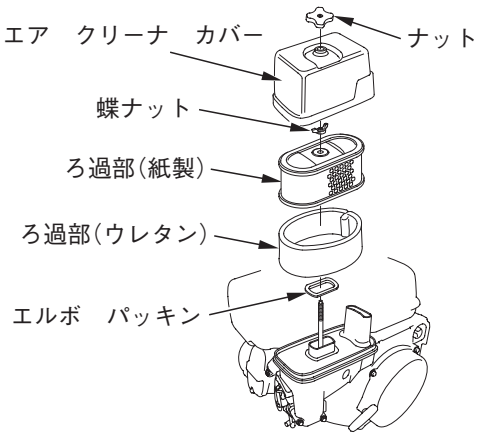
取扱いのポイント

オイルアラートが作動した状態でエンジンの運転をつづけると、エンジンが焼き付くなど損傷する原因となります。

エア　クリーナ(空気清浄器)の点検

1．ナットを外し、エア　クリーナ　カバーを外します。
2．蝶ナットを外し、ろ過部(ウレタン･紙製)を取外し、ろ過部(ウレタン･紙製)の汚れを点検します。
3．汚れがひどい場合は、ろ過部の清掃または交換を行ってください(清掃方法は14頁参照)。

・エルボ　パッキンが確実に付いていることを確認してください。



バッテリの点検(セルフ　スタータ付き)

⚠警告

・バッテリに接続されているコードはすべて取外してから行ってください。
・バッテリを取扱うときは風通しのよいところで行いショートによる火花に注意し、火気を近づけないでください。バッテリからは可燃性のガスが発生しているので爆発の危険があります。
・バッテリ液面が下限以下のままで使用または充電はしないでください。バッテリ液面が下限以下のままで使用または充電をするとバッテリの劣化を早めたり、破裂(爆発)の原因となるおそれがあります。破裂(爆発)の場合は、重大な傷害に至る可能性があります。
・バッテリ液は希硫酸です。目や皮膚に付くとその部分が侵されますので十分注意してください。
万一、付着した時はすぐに大量の水で少なくとも15分以上洗浄し、専門医の診断を直ちに受けてください。
・バッテリの結線は正確に行ってください。接続時は⊕側から接続し、外すときは⊖側から外してください。
工具などが接触するとショートする場合があります。

・バッテリは別売部品です。セルフ スタータ付エンジンをお買いあげいただいだ方は、お買いあげ販売店にご相談の上、適正なバッテリをご購入ください。
・バッテリの液面が上限と下限の間にあれば正常です。
バッテリ液が少ないときはキャップを外して蒸留水を上限まで補給してください。
・バッテリの接続がまちがっていないか、また締付けナットがゆるんでいないか点検してください。

エンジンのかけかた

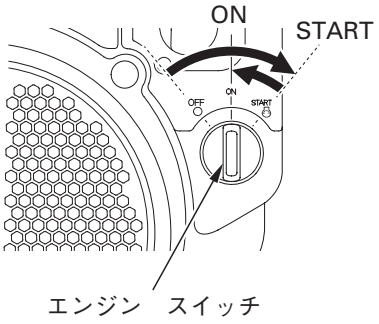
⚠警告

排気ガスには有毒な一酸化炭素が含まれています。屋内や換気の悪い場所ではエンジンを始動しないでください。一酸化炭素によるガス中毒のおそれがあります。

セルフ　スタータによるかけかた

1 エンジン　スイッチ

・エンジン　スイッチを“START”(始動)の位置まで回し、エンジンを始動します。エンジンが始動したらエンジン スイッチを“ON”(運転)の位置に戻します。



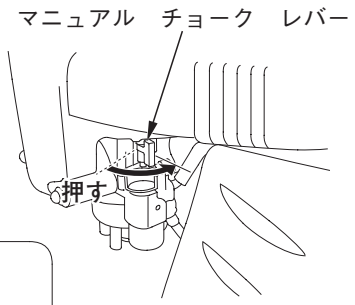
取扱いのポイント

セルフ スタータを回して5秒以内でエンジンが作動しないときは、10秒ほど間をおいてから再始動してください。

バッテリの放電により、セルフ スタータが作動しない場合　・始動グリップを使用します。

2 マニュアル　チョーク　レバー

・キャブレータ横についている、マニュアル　チョーク　レバーを1回だけ押します。

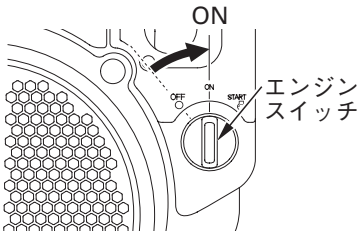


取扱いのポイント

エンジン始動後はマニュアル チョーク レバーの操作は行わないでください。本機が損傷することがあります。

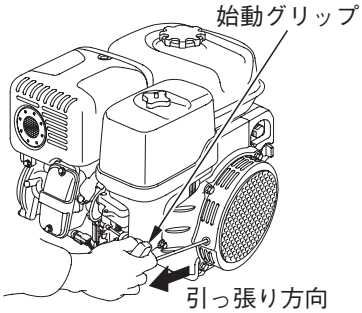
3 エンジンスイッチ

・エンジン　スイッチを“ON”(運転)の位置にします。



4 始動グリップ

・作業機側の安全な部分をしっかり押さえ、始動グリップを静かに引き、重くなるところで止めます。次に矢印方向に強く引っ張ります。
・始動グリップは手を添えて静かに戻してください。



取扱いのポイント

・始動グリップを引いたまま手を放さないでください。始動装置や回りの部品を破損することがあります。
・運転中は始動グリップを引かないでください。エンジンに悪影響をあたえます。
・始動グリップを引くときは、後方に人がいないことを確認してください。

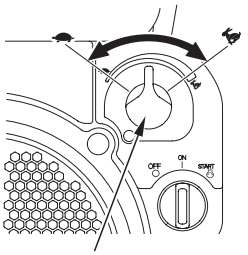
5 暖気運転

・2～3分間暖機運転を行ってください。

6 エンジン回転調節ボリューム

(ボリューム仕様)

・エンジン回転調節ボリュームを使用する回転数に調節してください。

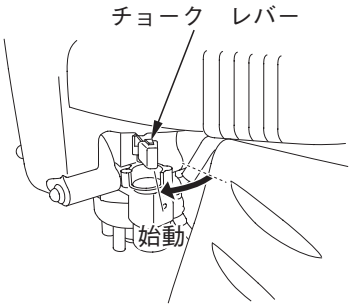


エンジンのかけかた

リコイル スタータによるかけかた（セルフ　スタータ無し）

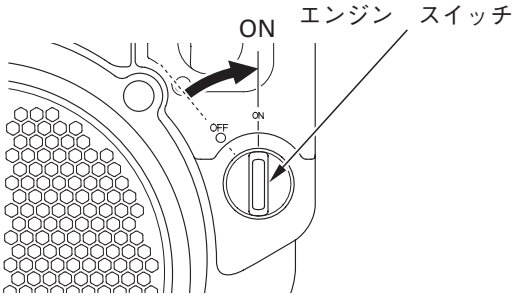
1 チョーク

・寒いときやエンジンがかかりにくいときにはチョーク レバーを**“始動”**の位置に合わせます。
・エンジンが暖まっているときは操作不要です。



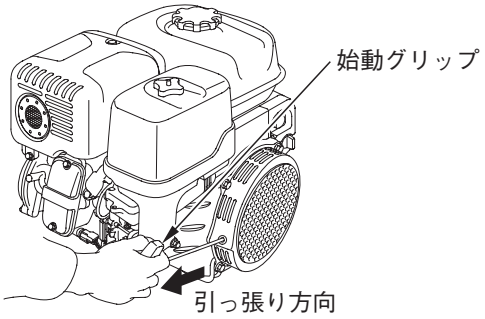
2 エンジンスイッチ

・エンジン　スイッチを**“ON”**（運転）の位置にします。



3 始動グリップ

・作業機側の安全な部分をしっかり押さえ、始動グリップを静かに引き、重くなるところで止めます。次に矢印方向に強く引っ張ります。
・始動グリップは手を添えて静かに戻してください。

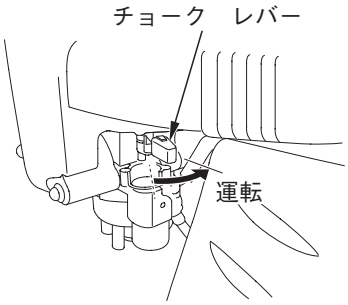


取扱いのポイント

・始動グリップを引いたまま手を放さないでください。始動装置や回りの部品を破損することがあります。
・運転中は始動グリップを引かないでください。エンジンに悪影響をあたえます。
・始動グリップを引くときは、後方に人がいないことを確認してください。

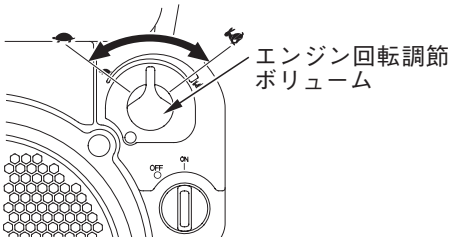
4 暖気運転

・２～３分間暖機運転を行ってください。
・チョーク レバーを**“始動”**にしたときは、エンジン回転が安定するのを確認しながら**“運転”**の方向にします。



5 エンジン回転調節ボリューム　（ボリューム仕様）

・エンジン回転調節ボリュームを使用する回転数に調節してください。

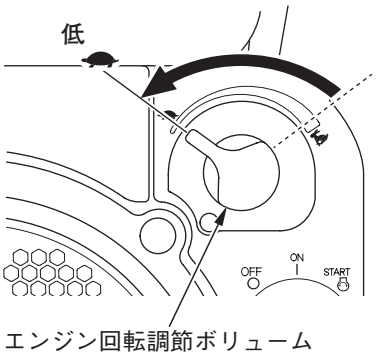


エンジンのとめかた

とめかた

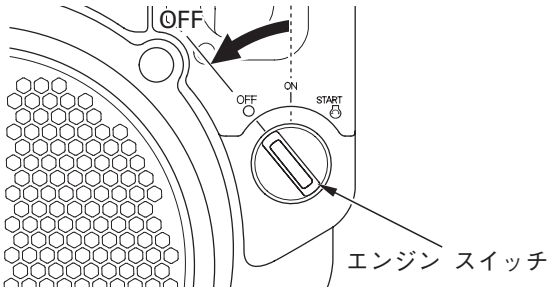
1 エンジン回転調節ボリューム（ボリューム仕様）

・エンジン回転調節ボリュームを“低”の位置（矢印の方向）に戻します。



2 エンジン スイッチ

・エンジン スイッチを“OFF”（停止）の位置にします。



定期点検を行いましょう

お買いあげいただきましたHondaエンジンをいつまでも安全で快適にお使いいただくために定期点検を行いましょう。

定期点検表

点検整備項目 ＼ 点検時期(3)		作業前点検	1ヵ月目または初回20時間運転目	6ヵ月毎または100時間運転毎	1年毎または300時間運転毎	2年毎または500時間運転毎
エンジン　オイル	点検	○				
	交換		○	○		
エア　クリーナ	点検	○				
	清掃			○(1)		
	交換					○
点火プラグ	点検、調整			○		
	交換				○	
スパーク　アレスター(装着機のみ)	点検、清掃			○		
吸入、排気弁のすき間	点検、調整				○(2)	
燃料ろ過カップ	清掃			○		
タイミング　ベルト	点検	500時間運転毎(必要なら交換)(2)(5)				
燃焼室	清掃	500時間運転毎(2)(4)				
燃料タンク、燃料フィルタ	清掃			○(2)		
燃料チューブ	点検	2年毎(必要なら交換)(2)				

(1)ほこりの多い場所で使用した場合、エア　クリーナの清掃は10時間運転毎または1日1回行ってください。
(2)これらの項目は適切な工具と整備技術を必要としますので、お買いあげ販売店またはサービス店へお申しつけください。
(3)点検時期は表示の期間毎または時間運転毎のどちらか早い方で実施してください。
(4)表示時間を経過後すみやかに実施してください。
(5)ベルトに亀裂、異常摩耗が入っていない事を確認し、異常がある場合は交換してください。

⚠警告

- **点検は平坦な場所でエンジンを水平にし、エンジンを停止して行ってください。誤ってエンジンがかからないようにエンジン　スイッチを"OFF"(停止)の位置にしてください。**
- **排気ガスには有毒な一酸化炭素が含まれています。屋内や換気の悪い場所ではエンジンを始動しないでください。一酸化炭素によるガス中毒のおそれがあります。**

点検・整備のしかた

エンジン オイルの交換

エンジン オイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

⚠注意

エンジン停止直後はエンジン本体の温度や油温が高くなっています。十分に冷えてからオイル交換を行ってください。ヤケドをするおそれがあります。

《交換時期》……初回：1 か月目または20時間運転目、以後：6 か月毎または100時間運転毎

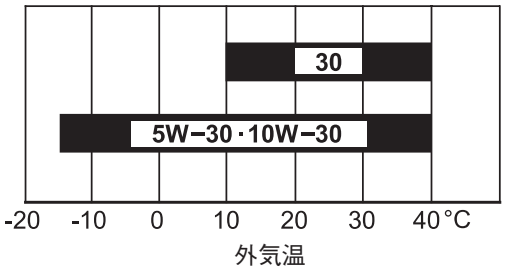
《推奨オイル》（4 サイクル ガソリン エンジン オイル）

Honda純正ウルトラU汎用（SAE10W-30）

またはAPI分類SE級以上のSAE10W-30オイルをご使用ください。

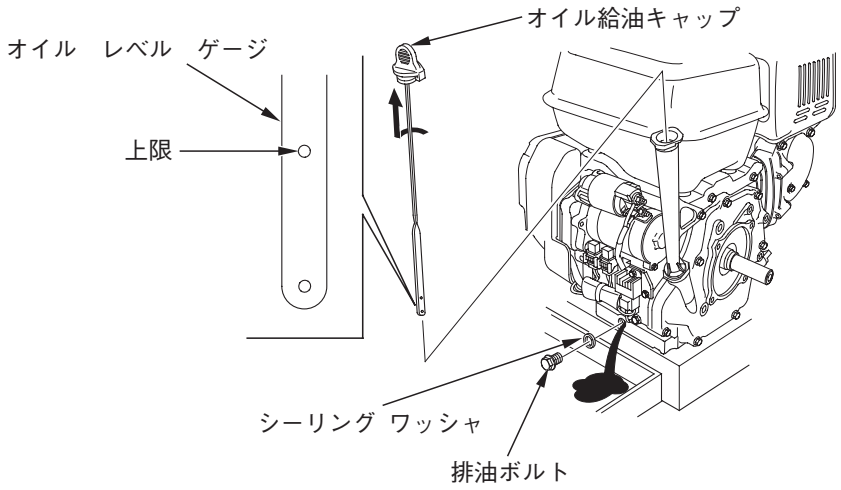
《オイル容量》 1.1ℓ

エンジン　オイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。



《交換方法》

1．オイル給油キャップ、排油ボルトを外してオイルを抜きます。
2．排油ボルトをきれいに洗い、新しいシーリング ワッシャを取付け、排油ボルトを確実に締付けます。
3．新しいエンジン　オイルをオイル　レベル　ゲージの上限まで注入します。
4．注入後、オイル給油キャップをゆるまないように確実に締付けます。



取扱いのポイント

- **交換後のエンジン オイルはゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。オイルの処理方法は法令で義務付けられています。法令に従い適正に処理してください。不明な点はオイルをお買いあげになったお店にご相談のうえ処理してください。**
- **オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。**
- **オイルは使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検、交換を行ってください。**

エア　クリーナ(空気清浄器)の清掃・交換

エア クリーナが目づまりすると出力不足や燃料消費が多くなるので定期的に清掃しましょう。

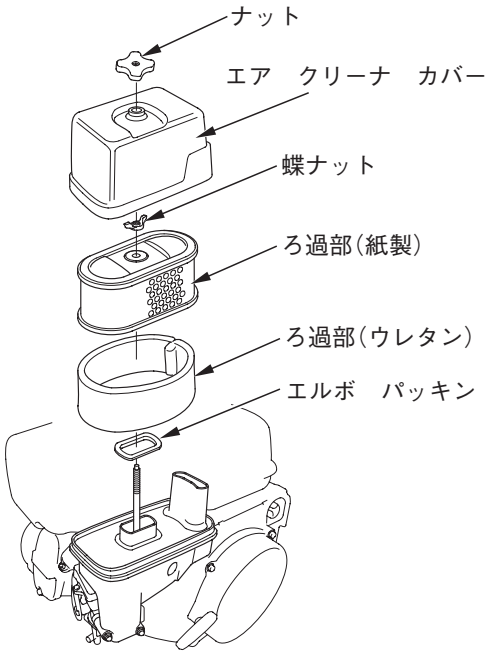
⚠警告

- **洗い油は引火しやすいので、タバコを吸ったり、炎などの火気を近づけないでください。火災を起こす可能性があります。**
- **清掃は換気の良い場所で行ってください。**

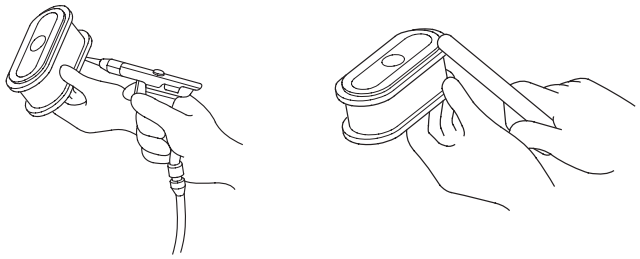
《**清掃時期**》……6か月毎または100時間運転毎
ほこりの多い場所で使用した場合は10時間運転毎または1日1回清掃してください。
《**交換時期**》……2年毎または500時間運転毎

《**清掃**》

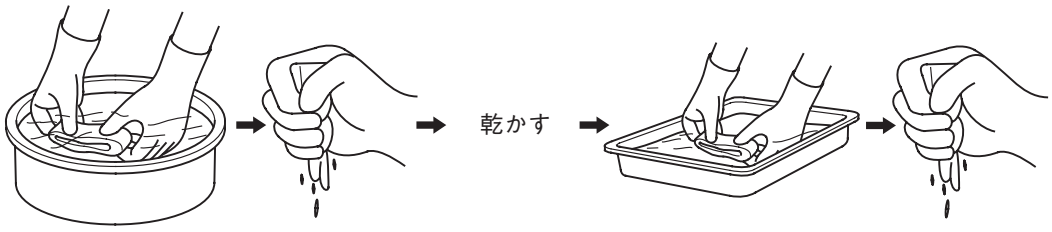
1．ナットを外し、エア　クリーナ　カバーを取外します。
2．蝶ナットを外し、ろ過部(ウレタン、紙製)を取外します。



3．ろ過部(紙製)の内側から圧縮空気を吹きつけるか、または軽く叩いて汚れを落としてください。



4．ろ過部(ウレタン)を洗い油または水で薄めた中性洗剤で洗い、よく絞ってから乾かします。
5．ろ過部(ウレタン)を新しいエンジン　オイルに浸した後、固く絞ります。



6．ろ過部(ウレタン、紙製)、エア　クリーナ　カバーを取付けます。

取扱いのポイント

- **エア クリーナを外した状態でエンジンを運転しないでください。エンジンが早く摩耗する原因になります。**
- **ろ過部(ウレタン)にオイルをつけすぎないように注意してください。**
- **エルボ　パッキンが確実についていることを確認してください。**

点検・整備のしかた

点火プラグの点検・調整・交換

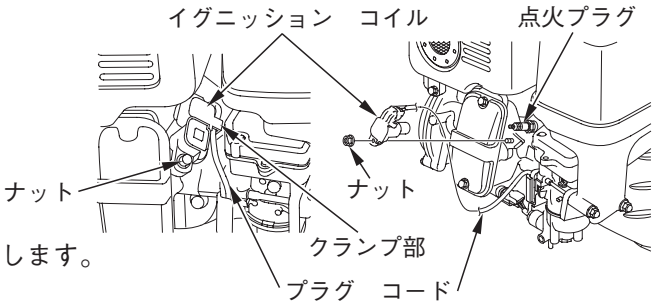
電極が汚れていたり、プラグすきまが不適当な場合、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。

⚠注意

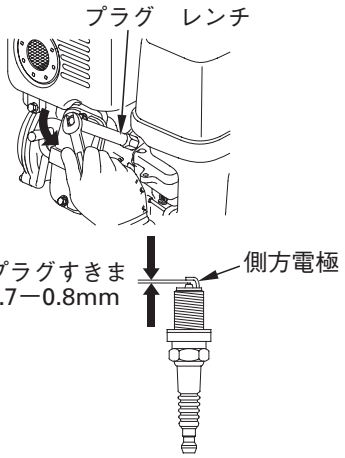
エンジン停止直後のマフラや点火プラグなどは非常に熱くなっています。ヤケドをしないように作業はエンジンが冷えてから行ってください。

《点検・調整時期》…… 6 か月毎または100時間運転毎
《交換時期》…… 1 年毎または300時間運転毎
《清掃》

1．イグニッション　コイルを締付けているナットを外し、イグニッション　コイルを取外します。



2．点火プラグの取付け部周辺をエア　ブローし汚れを除去します。
3．プラグ レンチで点火プラグを取外します。
4．汚れている場合はワイヤ ブラシ等で側方電極部を清掃してください。
※プラグ レンチ、ワイヤ ブラシは別売りです。



《点検・調整》

・側方電極を曲げて、プラグすきまを下記寸法に調整します。
プラグすきま： 0.7−0.8 mm
取付けはまず指で軽くねじ込み、次にプラグ レンチ、プラグ レンチ ハンドルで確実に締付けます。プラグ　コードをクランプ部に取付け、イグニッション　コイルを確実に取付けます。

《指定プラグ》
BKR7E-E (NGK)　K22PR-UR (DENSO)

取扱いのポイント

故障の原因となるので指定以外のプラグを使用しないでください。プラグの取付けは、ネジ山を壊さないように、はじめに指で軽くねじ込み、次にプラグ レンチで確実に締付けてください。
点検調整後はイグニッション　コイルを確実にセットしてください。確実にセットしないとエンジン不調の原因になります。

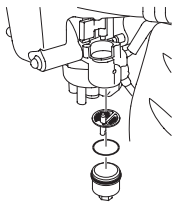
燃料ろ過カップの清掃

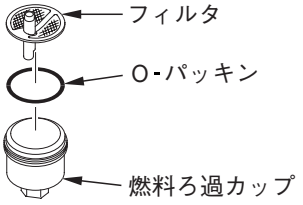
燃料ろ過カップ内に水やゴミがたまるとエンジン不調の原因となります。

⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。
・換気の良い場所で行ってください。
・火気を近づけないでください。
・ガソリンはこぼさないようにしてください。万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取り火災と環境に注意して処分してください。

《清掃時期》 …… 6 か月毎または100時間運転毎





1．燃料ろ過カップを取外します。
2．燃料ろ過カップを洗い油でよく洗い、底にたまったゴミや水を取り除きます。
3．清掃後、ガソリン漏れのないようフィルタ、O-パッキンと燃料ろ過カップを取付け燃料ろ過カップを確実に締付けてください。

スパーク　アレスタの点検･清掃

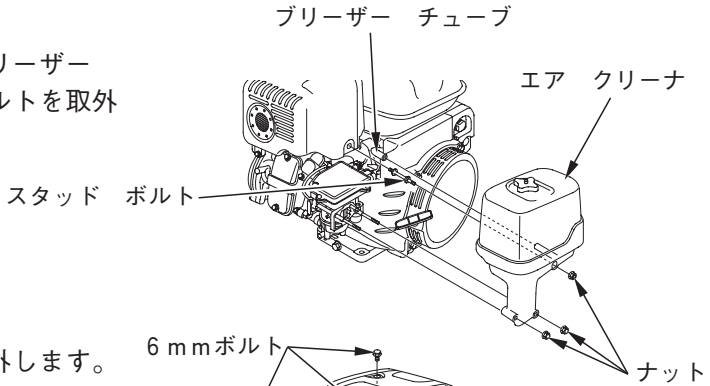
⚠注意

エンジン停止直後のマフラや点火プラグなどは非常に熱くなっています。ヤケドをしないように作業はエンジンが冷えてから行ってください。

《点検･清掃時期》…… 6 か月毎または100時間運転毎

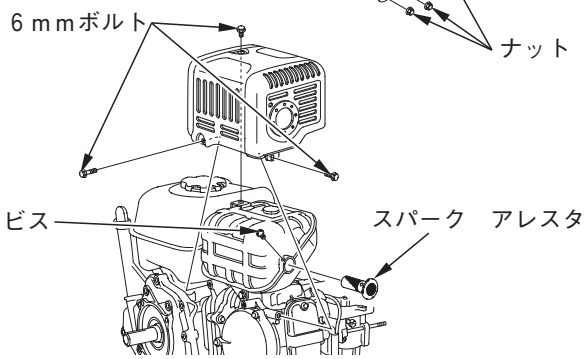
《点検･清掃》

1．エア　クリーナを取付けている 3 箇所のナットとブリーザー　チューブを取外し、エア　クリーナとスタッド　ボルトを取外します。

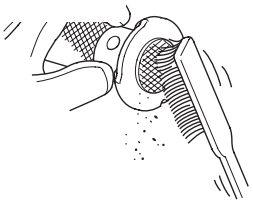


2．6 mmボルトを 3 本外し、マフラ　プロテクタを取外します。

3．ビス 1 本を外し、マフラからスパーク　アレスタを取外します。



4．スパーク　アレスタを目視で点検し、目づまりがないことを確認します。
目づまりがある場合はワイヤ　ブラシ等でスクリーンを清掃してください。



5．逆の手順でスパーク　アレスタをマフラに取付け、マフラ　プロテクタ、エア　クリーナを取付けます。

ヒューズの交換

・ヒューズが切れるとバッテリに充電したり、オート　チョーク機能を作動することができません。

取扱いのポイント

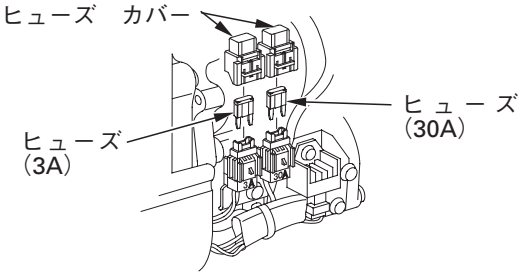
・ヒューズが切れた場合は、ヒューズの切れた原因を調べてください。そのまま交換しても再び切れることがあります。

・指定ヒューズ以外のもの、たとえば針金、銀紙などを使用しないでください。エンジンを焼損させる原因となります。

《交換》

1．ヒューズ　カバーを取外し、ヒューズを外します。

2．新しいヒューズを差し込み、ヒューズ　カバーを取付けます。



故障のときは

まずご自身で次の点検を行い、その上でなお異常があるときは、むやみに分解しないでお買いあげ販売店にお申しつけください。

エンジンがかからないとき

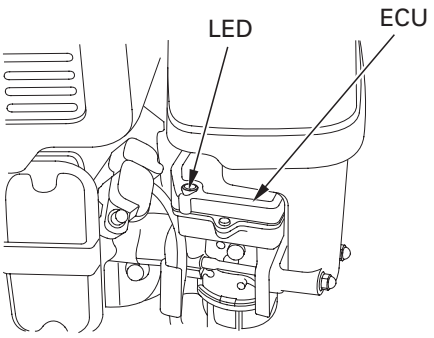
《セルフスタータを使用時》····· バッテリあがり等でセルフ スタータが使用できない場合は、マニュアル　チョーク　レバーを押し、始動グリップを引いて始動してください(９頁参照)。

・バッテリが充電しない場合 ·····バッテリを点検してください。

ECUのLEDによる故障診断　（セルフ　スタータ仕様）

・エンジンにバッテリが接続していない場合は、LEDによる故障診断を行うことができません。その場合の点検は18頁を参照してください。

①エンジン　スイッチを“ON”(運転)の位置にしたとき、ECUのLEDが点灯していますか?



点灯する

点灯しない

点滅する

②ヒューズ(3A、30A)を確認してください。ヒューズが切れていたり、異常があれば交換してください(交換方法は16頁参照)。

③エンジン　スイッチを“ON”(運転)の位置にし、LEDを確認してください。

点滅する

④点滅回数を確認してください。

点滅回数が２回ですと、オイルアラートが作動しています。エンジン　オイルを確認してください(点検方法は７頁参照)。

点灯する

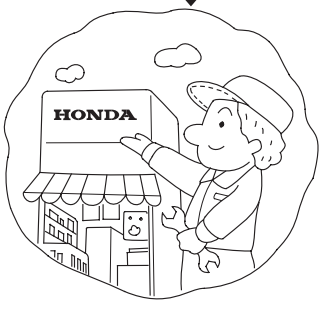
点灯しない

2 回以上点滅する

⑤エンジンは始動しますか?

始動しない

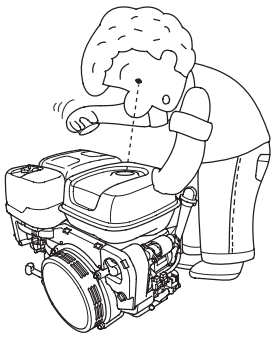
⑥LEDが点灯しても、エンジンが始動しない場合は18頁の点検を行ってください。



・お買いあげ販売店にお申しつけください。

故障のときは

①ガソリンは十分に入っていますか?



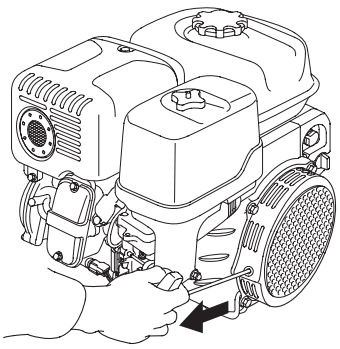
・入っていない場合は補給してください(6頁参照)。

②エンジン オイル量が不足していませんか?

・オイル量を確認してください。オイル量が少ないときは上限までオイルを補給してください。(点検、補給方法は7頁参照)

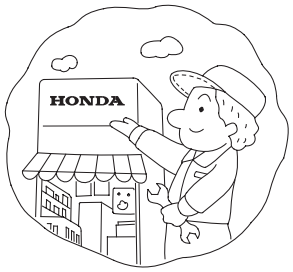
OK

③圧縮圧力は十分ですか?



・始動グリップをいきおいよく引いて、異常に軽い場合は、圧縮が洩れている可能性があります。

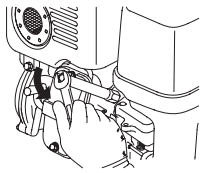
NO

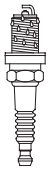


・お買いあげ販売店にお申しつけください。

OK

④点火プラグがぬれたり、汚れたりしてませんか?

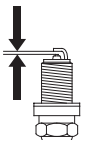




・ぬれているときや汚れているときは清掃するか新しいプラグと交換してください(点検、交換方法は15頁参照)。

⑤点火プラグのすきまは正しいですか?

・プラグすきまは0.7−0.8 mmです。



・すきまが正しくないときは調整してください(調整方法は15頁参照)。

NO

⑥点火プラグを取付けて再度始動してください。

バッテリの取付けと点検
(セルフスタータ付)

⚠警告

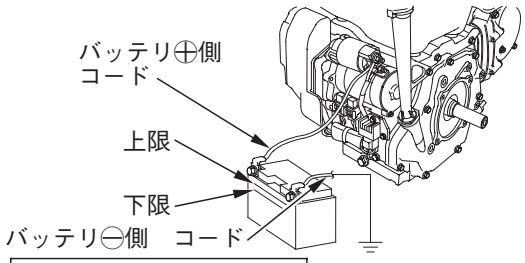
- バッテリに接続されているコードはすべて取外してから行ってください。
- バッテリを取扱うときは風通しのよいところで行いショートによる火花に注意し、火気を近づけないでください。バッテリからは可燃性のガスが発生しているので爆発の危険があります。
- バッテリ液面が下限以下のままで使用または充電はしないでください。バッテリ液面が下限以下のままで使用または充電をするとバッテリの劣化を早めたり、破裂(爆発)の原因となるおそれがあります。破裂(爆発)の場合は、重大な傷害に至る可能性があります。
- バッテリ液は希硫酸です。目や皮膚に付くとその部分が侵されますので十分注意してください。万一、付着した時はすぐに大量の水で少なくとも15分以上洗浄し、専門医の診断を直ちに受けてください。
- バッテリに表示されている警告と説明文をよくお読みになり、使用してください。

《取付け》

1. バッテリは12 V-24 Ah/5 HR以上の仕様のものを使用してください。
2. バッテリとエンジンの間のコードは自動車専用ビニール被覆電線(低電圧用)で断面積が8㎟以上のもので圧着端子付きを使用してください。コード長さは1 m以内にしてください。
3. バッテリ端子にグリース等を塗布し保護してください。さらに⊕端子にはカバーをしてください。
4. バッテリの配線は正確に行ってください。接続時は⊕側から接続し、外すときは⊖側から外してください。

《点検》

- バッテリの液面が上限と下限の間にあれば正常です。バッテリ液が少ないときはキャップを外して蒸留水を上限まで補給してください。
- 端子のゆるみ、腐触は接触不良の原因となります。ゆるんでいるときは確実に締付けてください。端子に白い粉が付いている場合は、お湯で清掃し、グリースを塗布してください。
- 長期保管後使用するときや、バッテリがあがり気味のときは補充電を行ってください。



取扱いのポイント

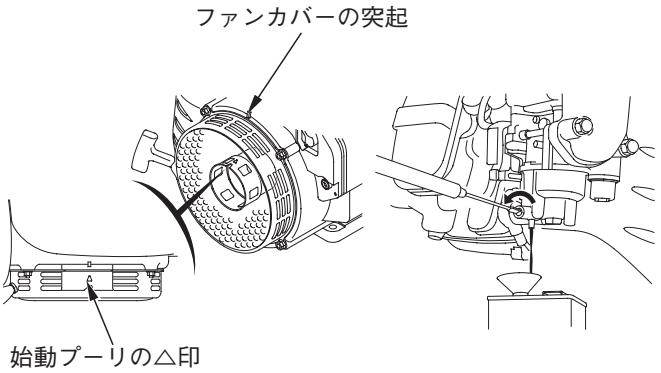
必ず蒸留水を補給してください。水道水はバッテリの寿命を縮める原因となります。
上限以上に蒸留水を補給しないでください。入れすぎると電解液がこぼれて金属を腐食させる原因となります。万一バッテリ液をこぼしたときには水洗いしてください。

長期間使用しないときの手入れ

長期間使用しない場合、または長期間格納する場合は次の手入れを行ってください。
30日以上使用しないときは、燃料タンクとキャブレータ内のガソリンを抜いてください。古くなったガソリンは故障の原因となります。
誤ってエンジンがかからないようにエンジン　スイッチを"OFF"(停止)の位置にしてください。

⚠警告

- ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。
- ガソリンを抜くときは
  - ・エンジンを停止してください。
  - ・火気を近づけないでください。
  - ・換気の良い場所で行ってください。
  - ・ガソリンはこぼさないように抜いてください。万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取り、火災と環境に注意して処分してください。



- ●始動グリップを引き、重くなったところでファンカバーの突起と始動プーリ△印を合わせます。
- ●燃料タンク、気化器内のガソリンを抜きます。
- ●エンジン オイルを交換します。
- ●ビニール等でカバーをします。
- ●湿気、ホコリの少ない所に保管してください。

取扱いのポイント

- 次回使用時は、新鮮なガソリンを入れてください。
- オイルは自然に劣化します。使用しない場合も定期的に交換してください。(6か月に1回新しいオイルと交換)

主要諸元

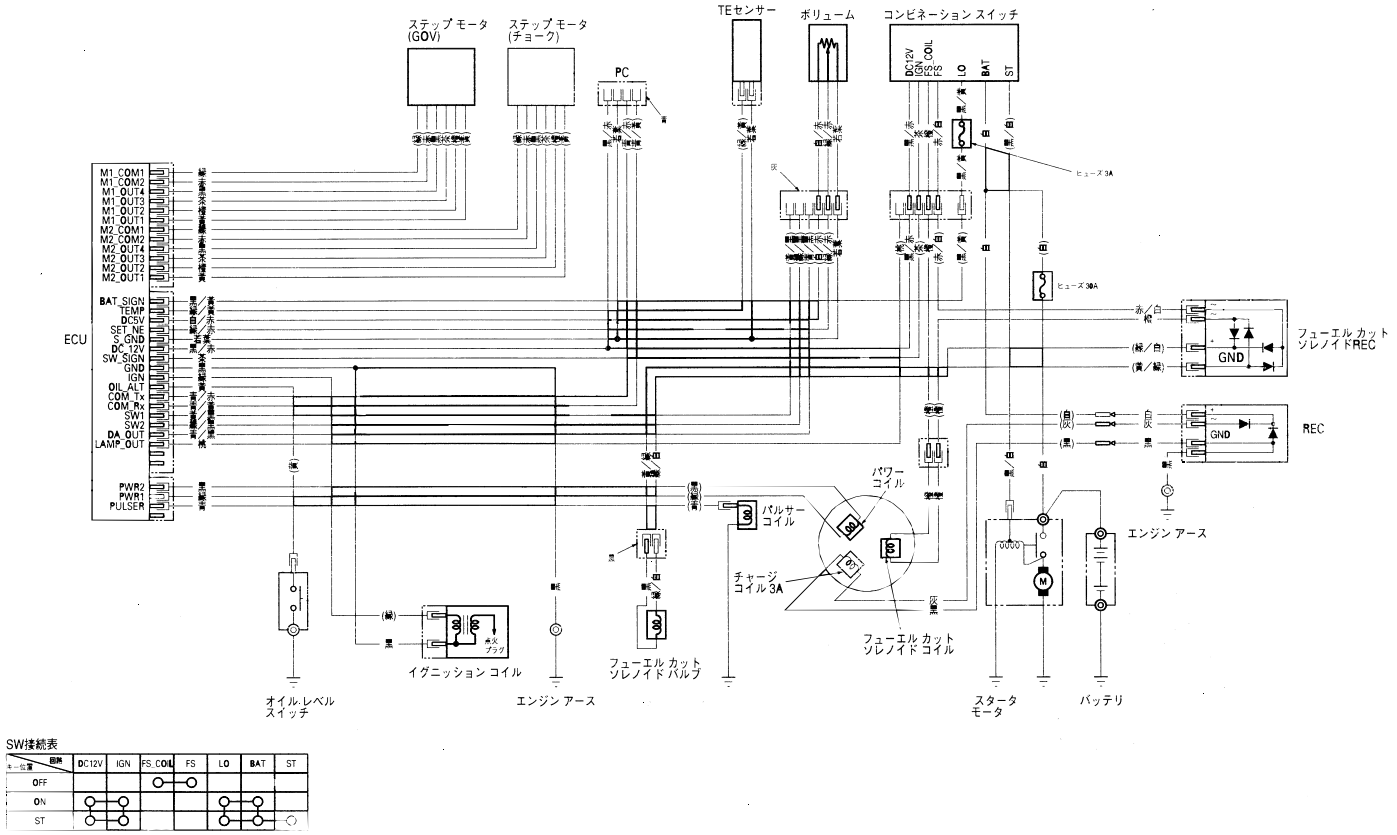
寸法質量はSタイプの数値です。

名　　称	iGX440	
型　　式	GCATK	
全　　長	407 mm	
全　　幅	505 mm	
全　　高	454 mm	
乾燥質量（重量）	39.4 kg	
形　　式	空冷 4 サイクル傾斜形ガソリン（OHC）	
総排気量	438 cm^3	
連続定格出力／回転速度	8.0 kW (10.9 PS)/3,600 rpm	
最大出力／回転速度（SAE J1349に準拠*）	9.5 kW (12.9 PS)/3,600 rpm	
最大トルク／回転速度（SAE J1349に準拠*）	29.8 N·m (3.04 kgf·m)/2,500 rpm	
使用燃料	無鉛レギュラーガソリン	
燃料タンク容量	5.9 ℓ	
エンジンオイル量	1.1 ℓ	
点火方式	CDI式マグネト点火	
始動方式	リコイルスタータ	リコイルスタータ/セルフスタータ

＊ここに表示したエンジン出力はSAE J1349に準拠して3,600rpm（最大出力）、2,500rpm（最大トルク）で測定された代表的なエンジンのネット出力値です。量産エンジンの出力はこの数値と変わる事があります。
完成機に搭載された状態での実出力値はエンジン回転数、使用環境、メンテナンス状態やその他の条件により変化します。

※諸元は予告なく変更することがあります。

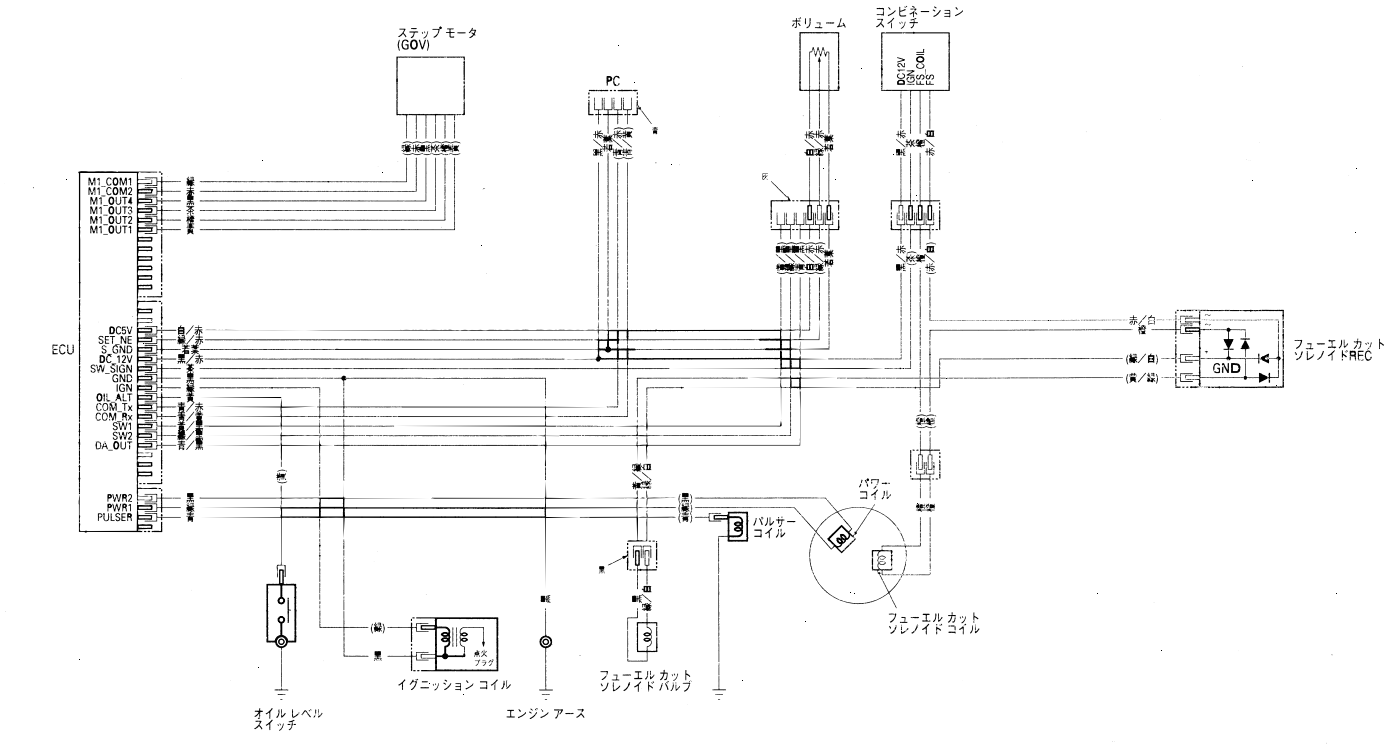
配線図



SW接続表

回路 / キー位置	DC12V	IGN	FS_COIL	FS	LO	BAT	ST
OFF			○	○			
ON	○	○			○	○	
ST	○	○			○	○	○

（セルフ　スタータ仕様）



SW接続表

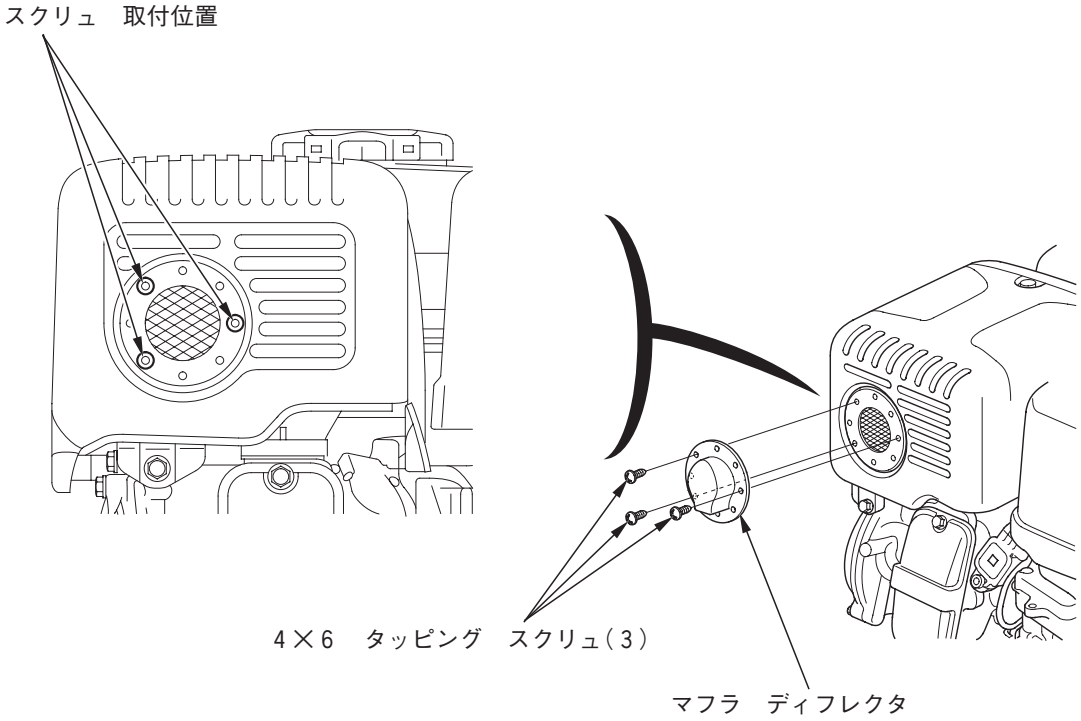
回路 / キー位置	DC12V	IGN	FS_COIL	FS
OFF			○	○
ON	○	○		

（リコイル　スタータ仕様）

同梱部品の組付け

マフラ　ディフレクタの基本取付け位置

マフラ　ディフレクタの排出口を下に向け、４×６　タッピング　スクリュを下図の位置に確実に取付けます。



HONDA
The Power of Dreams

Honda汎用製品についてのお問い合わせ･ご相談は、
まず、Honda販売店にお気軽にご相談ください。

販売店

TEL

お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記の
お客様相談センターでもお受け致します。

本田技研工業株式会社　　お客様相談センター

フリーダイヤル　　0120－112010（イイフレアイオ）

受付時間　　9：00～12：00　　13：00～17：00
〒351-0188　埼玉県和光市本町８－１

所在地、電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

Honda汎用製品に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速
にご対応させていただくために、あらかじめ、下記の事項をご確認のうえ、
ご相談ください。

①製品名、タイプ名
②ご購入年月日
③販売店名

GX440I

30Z2E601
00X30-Z2E-6010

古紙配合率100%の再生紙を使用しています。

©2005 本田技研工業株式会社